



兵庫名所記

ル 4
1757



門 1234
1757



序

予看遺和於坊，命之次有示兵庫名所記者，
闕之雖匪，哀不交於一州。其畫中有山川，
海邊有曠野，邨落也。而神祠梵宇，廢宮荒墳，
森森亦既多哉。將以區別乎方，提按討平，故
事若夫，貴客之歌章，騷人之詩賦，及血翁漁
父之談，閭巷傳聞之語，共收並貯之，既而採
之，不得，不廣則載之，亦不能不見也。然裁制

之互最得簡而禦予嘗遊於其地目擊厥二
三焉今也按此無索之則不賴縮地之術而
瞭然乎几席之間美矣吾子勤焉且夫家務
煩攘之餘雅來會晤之徒森非潦倒杯酒彼
惑憚存浪度日之莫肯而尚於此好事苟可
謂有所用也而不徒消國者哉矣

廣永庚寅端五日

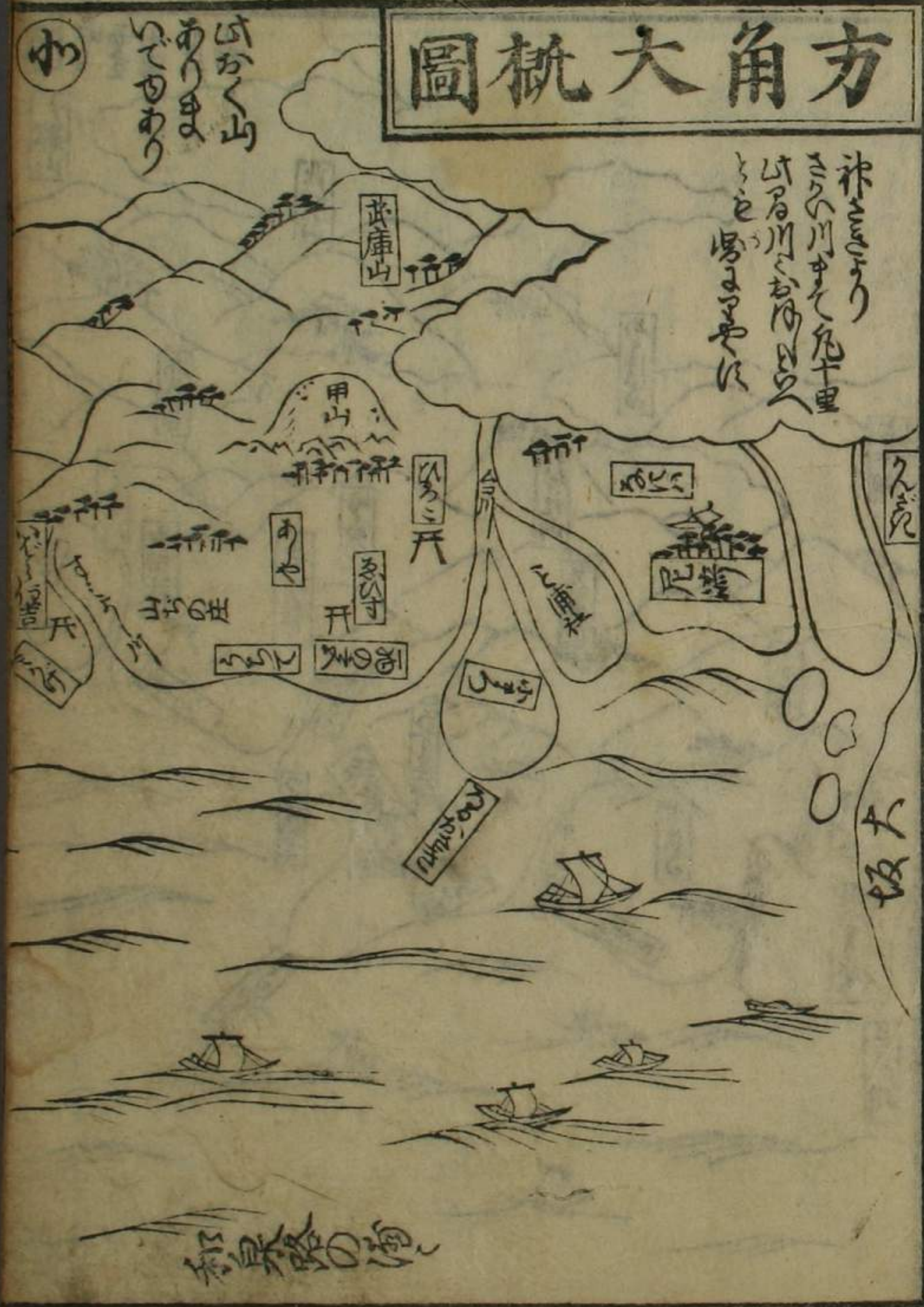
州澤醫士識



凡例

- 一初丁に大概の摠圖として最方角を引
- 一上乃卷の兵庫石道名所を先づいて其北乃方
西之宮まで五里の内且く又廣田より上津邊と
なるまで又荒場北古迹を同卷の末に追加
- 一下の卷は兵庫より南西の分標津播磨あまの
境川まで約行凡二里名所回必めて終極
- 一各所の古歌續集を巻出し載るるは其の歌
集一二首宛を多く
- 一所とれは其の積り兩の巻後丁に集むる法を
其法も附たり

方角大枕圖



攝津 故老俗傳云天探女神天磐船ニリ此國ニ
 攝タル高津ノ号ヲ取テ攝津ノ國ト稱ス亦漢書云
 攝然トシテ天下安云 字彙云攝ハ靜謐ナリ兩儀
 相共ニ要津ノ連續ニ取テ大上國トス上管十三郡所
 謂
 一西成 一住吉 一東生
 一武庫 一島上 一豊島 一能勢
 一免原 一有馬 一八部
 是紀の郡ハ矢田郡免原郡乃三郡あり又武庫
 川ノ名この郡れ肉を加ふる也

神戶村

河原兄弟塚

生田大明神

梶原井

北野天神

布引の滝 ○日寺

小野坂 ○日崎

生田里

摩耶山初利天上寺

船寺八幡

花熊城跡

生田森

巖梅 ○敦盛萩

城ヶ口印石

生田川 日山池海浦磯

砂子山

敷馬の浦 ○日崎

同若菜

求女塚

弓弦羽嶽

御新山

兔糸住吉社

山崎城跡 日湯

葦原里 日津冲浦塚

湯之の薬師 日松

阿保親王御廟

佛前冲 日濱

追加

廣田社

鷲林寺

涉新森 ○菴松系

灘田浦 ○五百俵

本庄稲荷 ○おどろ松

夜鳥塚

折出村 ○金津山

宿河原

西のまや 赤ひすれ山

武庫山 六甲山

感應寺

- 一 角の松糸
- 一 鳴尾勝里
- 一 小まの橋
- 一 翠浦明神
- 一 難波の里
- 一 大物乃浦
- 一 長例村
- 一 津之村
- 一 おりせや
- 一 武庫川
- 一 猪名
- 一 堀江
- 一 浦の物為
- 一 神崎

兵庫名所記卷之下目録

- 一 福嚴寺 ○自然居士の井
- 一 二本松
- 一 和田の笠松
- 一 びじはら
- 一 八棟寺迹
- 一 月見の法所
- 一 魚乃御堂
- 一 千僧寺跡
- 一 和田のこゝろ 日海入江渡り
- 一 福海寺
- 一 真福寺 ○さうせ川
- 一 一遍上人塔 ○真光寺
- 一 清盛石塔
- 一 渚沙の八江
- 一 萱乃御所 樓下石も云
- 一 薬仙寺 ○長谷観音
- 一 灯籠堂
- 一 和田明神

一 大和田の浦
 一本間遠矢
 一 延喜山
 一 白ひの梅
 一 保五塚
 一 長田大明神 ○月里
 一 蓮乃池
 一 盜後池
 一 妙法寺 ○車村矢拾地處
 一 淀の徳橋
 一 兵庫古城
 一 内裏屋敷
 一 真野の池 徳橋里海浦
 一 通盛塚
 一 荻藻川
 一 明泉寺
 一 西代村 ○七ツ井
 一 禪昌寺 ○鷹取山
 一 二葉松
 一 忠度塚

一 盗人松
 一 勝福寺 ○大手村聖天権現
 一 因幡薬師 ○稻葉山
 一 磯馴松
 一 鏡ヶ池 多井畑
 一 腰掛松
 一 若木櫻 ○漢竹
 一 須磨乃関屋
 一 の谷 ○ひよ多哉 ○鉄槌が峯 ○安徳天皇御遷幸陣所 ○巖石落
 一 飛松
 一 月見の巻
 一 光源氏古迹
 一 行平松
 一 細敷天神
 一 須磨寺 灵宝付
 一 う海の小

- 一 上野 ○二の谷 ○三の谷
- 一 敦盛塔 ○鉢伏がみ
- 一 境川 ○日のゆき
- 一 須磨の浦 ○こりう江○ちり川
○兼次

- 一 山田の回跡 ニケ石
- 一 兵庫十景此題
- 一 福原観音札所名目
- 一 兵庫より徳方道法
- 一 須戸乃浦十景此題
- 一 所々年積 上下後丁ニ記ス

兵庫名所記卷之上

一 福原都の事

柳攝津乃國矢田於郡後系此在兵庫へ應保年中に築為成然して後平相國清盛入る海浜の沙汰らしては所々此と院小く成く臨兼口庚
 六月二日人王八十一代安徳天皇 今年三歳 一院上皇格
 改殿せらるめ有るを改大御山下月御雲岩平家
 中を改入るを物一門の人とを亦百家人民しとを
 山崎の五平安塔よりは後系に後里より他大納言
 新蓋乃山庄皇居と成 菅田村小
古改あり 同九月新都と物

西へさして上郷の小徳大寺のた大の實家土佐門
宰相中納言通親奉納のあたる人新隆の
の友夫をたうと和田乃松東西に中とてん九
城乃比之刻のあたる海一一条よりみ系といひ
てと下北比の公のまらしく金美あうとこと百
歳の政事ゆきと依く又變改ありて日一き
自北十一月廿一日回船は還幸ありと多の右政入るた
此地はあつとく信あり

○後系新地地形の事源平盛之妻紀小云の神物
岳跡生田廣田西乃名者毫と並つるをそせぬ代の
あつとく雀の松系流記乃松代はうつ無縁あり

くもの
をく井小睡を布川の流乃白玉岩間小つね後と觀き
ハ舞臺のそと校む曉乃嵐の漠とるを吐おにる
茶海乃天を望せり夕陽を沈くを吞る海
漫くして遠帆を此浪は漕まされ巨海花とて
眺望煙波は眼と遠く月のみと増する須なる
流跡乃のせりろく堂火燃らるるの雲は夏の若
いづきもそりぐり心すくつるあり

一 築碇の年中

右政大臣平清盛公は兵庫の浦上下地界の松風波
乃難美あつらんが為とてく意保元乙二月上旬より
て碇と築つたは八月二日大風は波と動し流

ころのがめく元の善海と云ふをきて同日三月下旬
 の波民が成良を以てして築るに又南風が吹く
 忽白浪とて又築を詢うるあり況又成良の
 故小時の持在阿倍の泰氏とてよく同く天文地理の
 妙術とてよく考やけりは通例也てあり
 が一人柱とて入る築一の好い成良すまこと其に
 依る當玉生田の小井に園とす人姓良の旅人とか
 捕へにと新築あり一室は平おまの家童にねと児
 童のまごあひとてども俗人の歌とて我一人は俗
 に入を命に替へんと誓白馬に白鞍をさそ糸海内不
 りりしとやせく又射のふよ一切終りま字一形付て

佛底より一棟は龍井納史をりやと存はら
 ろく此得成然して姓良の叔乃思あく玉家の末代
 の規模と云ふる依る終り傳とて名付たり又築書
 良の事兼安三癸巳年ともあり
 一築橋寺 今兵庫町家の内東海に在り
 浄土西山流經書山本遠と号し平清盛公更刻
 あり應保元乙七月十三日為徳養あり性善七堂伽
 藍の乃場ありと遠武の庄被却すなり一傳
 一中堂阿弥池 ありの事一観音寺 和田岬海底下あり

○靈寶
 一人柱の事 松平七郎の木より一法堂鏡の事 五十里集内附



上之巻

又三

一 小宰相の居る塔 漆川の上鳥居村に成る内には

いしがのの越あろ三位通盛乃嘉友系形初に範賢れ女こ
 通盛一の若少く付きあのを款と安永三丁二月十四日
 船より身とまげ果海入不縁の老安に夫婦の之塔と
 たて今に古改述せり

一 漆山 川乃あよあり

一 雲門の法所 御乃方山の漆山すそに色
 後系初のこれ法慶公雲門の亭と造りてあの日改まり

一 岡鷄野 一ヶ所の境
 今養神村と云兵庫分十丁なりとあやまれ蘇に一村あり

今養神村と云兵庫分十丁なりとあやまれ蘇に一村あり

一天王谷 兵庫より半里程の有馬温泉より
 いづろふをきり谷には千頭天皇のまゝありて取祭祇
 園の由緒素盞鳥尊よりそよりあり飯湯の山へ
 六里たより山あり

一安徳天皇御皇居 葛田村よりさるるのうへ兵

庫より八丁計。飯系於近江の御皇居あり。また池の
 大波之年の束巻口の山ありあり

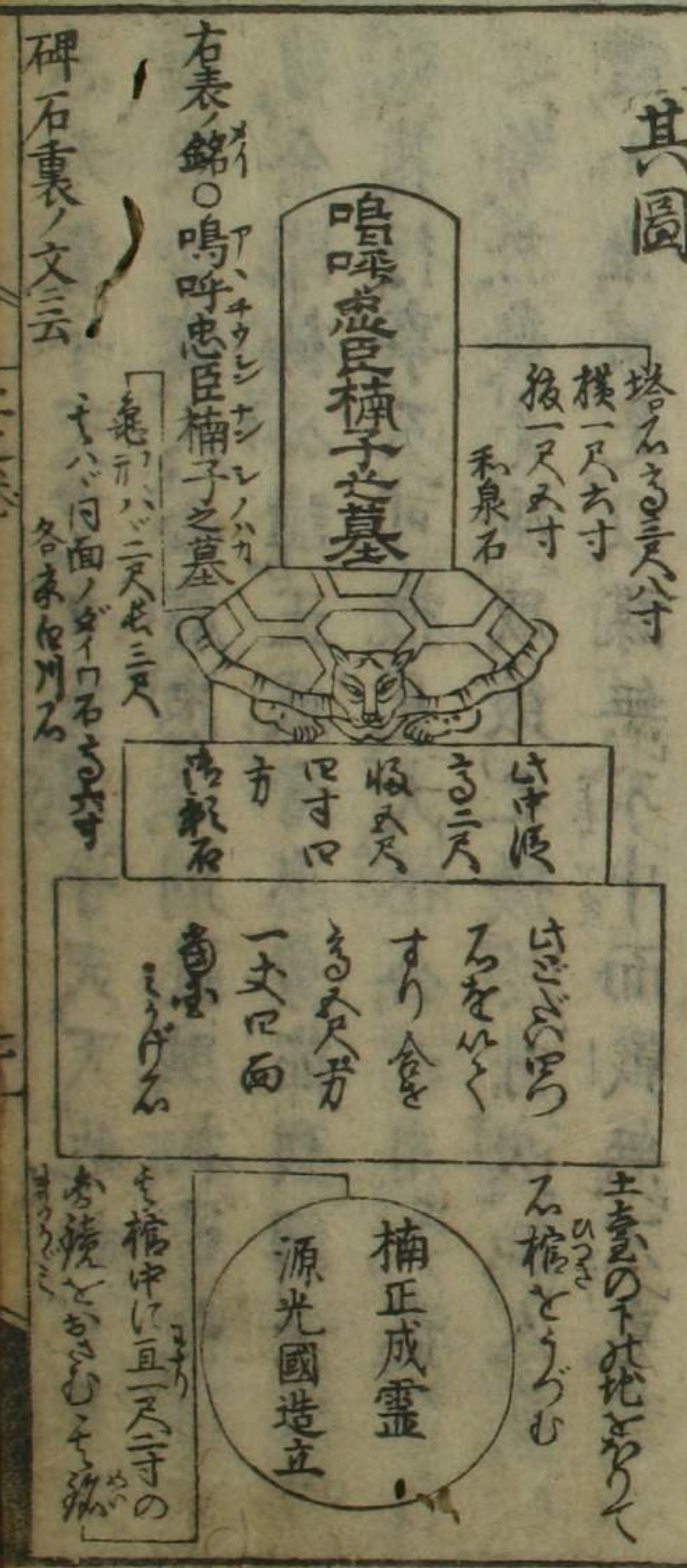
一差方塚 葛田村北東畑の中は塚。中はあり

治養四年六月九日。飯系新於乃。備三條大納言國
 綱。初。治。け。ぬ。り。の。此。塚。を。築。き。より。地。形。より。を
 一里内裏を造らざりしあり

一楠河内判官橋正成塔

兵庫より水尾のの上。坂本村のお富。中。信。比。と。い
 塚。中。橋。の。二。本。あり。一。が。元。祿。四。の。水。戸
 黄門光國公古墳と云ふ。一。あり。碑。を。建。り。し

其圖



右表銘。鳴呼忠臣楠子之墓

碑石裏ノ文ニ云

塔高三尺六寸
 横一尺六寸
 後一尺六寸
 和泉石

石中長三尺
 石幅三尺
 石厚一尺
 石口一尺
 石底一尺
 石面一尺

石中長三尺
 石幅三尺
 石厚一尺
 石口一尺
 石底一尺
 石面一尺

楠正成靈
 源光國造立

石中長三尺
 石幅三尺
 石厚一尺
 石口一尺
 石底一尺
 石面一尺

忠孝著乎天下日月麗乎天地無日月則
晦蒙否塞人心廢忠孝則亂賊相尋乾坤反
覆余聞楠公諱正成者忠勇節烈國士無雙
蒐其行事不可概見大抵公之用兵審強弱
之勢於幾先凌成敗之機於呼吸知人善任
體士推誠是以謀無不中而戰無不克誓心
天地金石不渝不為利回不為害怵故能興
復王室還於舊都諺云前門拒狼後門進虎
廟謨不藏元兇接踵構殺國儲傾移鍾虜功
垂成而震主策雖善而弗庸自古未有元帥

如前庸臣專斷而大將能立功於外者卒之
以身許國之死靡佗觀其臨終訓子從容就
義託孤寄命言不及私自非精忠貫日能如
是整而暇乎父子兄弟世篤忠貞節孝萃於
一門盛矣哉至今王公大人以及里巷之士
交口而誦說之不衰其必有大過人者惜乎
載筆者無所考信不能發揚其盛美大德
右故河攝泉三州守贈正三位近衛中將
楠公贊明微士舜水朱之瑜字魯瑛之所
撰勒代碑文以垂不朽

右碑文十行跋文二行都合字数三百三十字也

日雨露の覆ひ瓦葺三間四方也

一 菩提所 坂中村西もぐまひもあり

醫王山廣教實勝禪も号し後だいに天皇山勅額
用山煥惠の極和る系剣も茶作也来堂と極増願
秘と心成の影像ありひと代紀あり

○正成我死建武三年丙子五月念五日

○用山明極寂日九月念七日と南も弘も弘も連板
又書也

楠正成同才正季はさの殿殿とあり一系十六諸助
七年二人自害と云正成四十二歳

○廣教も水末又大進の安養もとて貞喜の中

高知法行も所廟あり其杭あり

一字法川 兵庫分八丁水御所の小川はあり

字法中村とありあり 中法村とありあり

一再度山大徳あり 兵庫分八丁水御所の小川はあり

坂口右字法中村とありあり

△小寺也意極教あり 法行法をあり

祇園山と始大尾山と中法徳帝の法字神修系あり

年相和氣法廣増養ふり月と初基信正二刀三

礼の如法極教者自法の像とありあり

又延暦年中に弘法大伴は山とありあり

事と誓ひ入る一徳ひ未り形を正し海是し
物ありて大同五年少くび光山ありて再安
中を治大比立若好中真の因徳とあり毎
佛舎ありて徳人群系し

○觀應三子赤れ判友信徳彦五郎兄才徳徳の西
毎に船の傭とま事紀と也

一蛇谷 同山内あり

弘法大師入唐の舟院と記せし事一西風と吹あり
とく川がらんとい時母大徳出現して色せり
すむ事成ゆと終に唐に入徳の終りありと
又ありし浦よありて大徳死くありて是を
又ありし浦よありて大徳死くありて是を

神

世大徳の冥助ありと光山一徳大徳又は若くは
つくい而を蛇谷と云

一神戶村 宇治川のついでに徳還の村を事紀と
之向の西の口と走水次と二つちや及末と神戸と

之におつては所より諸公の回航ありしあり
○和名類聚に神戶村とあり

昔神功皇后三韓退治海船ありて是よりあり
款の首と実見ありて板橋村とす云傳あり

一花徳徳治 一徳村のと乃一村あり

成徳の幸永福十下ありて織田信長公のさす
小矢田初花徳と城と築く其本橋は村重に

仍存海の波野に与一集を乃ててその内
におまはに遊むのたの方又水のいも二音くうり
その西に之元集の中其志摩村に先を流り
天正三の乙を居候し志摩守の子細ありて流利先利
加里を流すと又与一集一ヶ年守居候ははるの大坂門
迄流候の事には西必流其始が共狼と運送すと伝長
公が世のよ物くそぞとあり候大に取合ありて私軍
如く我兵討またりと流し流利の一橋難免孫一橋
某の流初者集の此際へ流る事と池田伝輝入を務入
向ひありて取合あり候と天正八庚辰の七月下
為降之今に流利の古記あり

一河原見才塚 津戸村が三丁半末島の中
塚中松二が西原平末永一の若合戦又武蔵其の
值人河原末永永一と同日に流し流利の社遊事に向
ひ先陣とて逆流本とのり戦平末永永一と入一に
流利の流り流人末永永一助光が矢とありて先陣に
討またりて死の賞にありて原流世に及一とこ
頼物公が流利に其流とて流り天正の中流く
と流ありしと一と流利とあり

一生田森 津戸村が八丁半樹方とあり
河原一と流利の流り一物と流の流生田の杜乃秋の初風
夫木一と流利生田の杜乃秋の流の流り一と流利
僧部 清胤 後成

東水原平合戦の時平家一の谷乃嶽に逃りて
大將軍新中納言平兼盛中三位平重衡は水の山
乃蘇の南海邊まで逆戻すと東垣楯と云はれ
是の西南一の谷楯原に垣屋村と云はれ
堀内なることや

一日大明神

とらめの内之居也

新後神氏

祭神一座

稚日女尊

按社名小石座

天照太神所妹と神祕

日本紀ニ稚日女尊坐于斎服殿而織神之御衣也
神功皇后紀ニ云伐新羅之明年二月稚日女尊誨之云
吾欲居活田長峽國因以海上五十狹第令祭之云

御位貞觀九年十二月十六日從二位

毎年八月乃祭祀なり板原の庄村民氏子なり

一 箱梅

右社内あり

一の谷合戦乃に梶原父子二度のけり時頼源を系
季梅の枝と云ひしはしめしはしめしはしめしと
ヤ修め

玉葉

時頼捨くつら生田の郭公を梅と云ひ其の子孫不

一 梶原弁

同社内あり

右戦場のこゑ梶原平三系時井のちと結びて
運と生田の神よりなるものごとく

一 敷盛萩

同境内あり

大夫平敦盛は下の萩を奪いし和歌と作はし依勢を
又敦盛の遺子ありて和歌を奪ひ父にありて一の谷
へありてありあり和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を
古記ありし和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を

一城ヶ原の石 生田の森を三田平ありて一村
ありて和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を

一山中天祥 日鏡の山中村あり

治承三年平家大朝臣を和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を
これより和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を

一生田川 森が末樹るの川あり

水が南へ流るる川ありて布川の橋乃まれば生田の池あり

山ありて和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を

一和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を

一和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を

一和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を

一和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を

一和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を

一和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を

一和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を

一布川あり 生田川あり

一和歌を奪ひし和歌と作はし依勢を

二河をそ流るるたふ余海邊をうらとの初とて
地ふまへうらうら

千載のあはれのうらをそとるる初はじらん河川の流 六条の

夫木 古のうらをそはじ世の衣衣を井まうは河川の流 有家

夫木 河川の流乃白糸をそは絶すそ人の心絶らる 定家

平治物語云小ねの内家以流へ宿く始末後おの玉の何

人難波お脚指儀言世の命にうらう流臺龍を城とて

流るるのりそまのら

流のありに流るるのりそ河の布門とて号は流

たこの香と稱と中まのたさう執事多人の初老乃他

西原をうらうはれ初流る

一 砂子山 夫木 鬼系初熊内村の上流乃り

一 小野坂 夫木 同傍 生田川の末小坂を傍ハ川すて

一 藤人のた 盛百 藤人のた藤人け小ひの生田川の中あ葉をり 昨捕

一 同ね 夫木 同ねも相らそはの玉生田乃小ねにりあひん 終年

一 又生田 夫木 又生田は葉毎の心月は 肉裡敵と今生田村の

中尾村分

一 敏子浦 夫木 根濱村志友村のる溪邊と云は流乃

一 小舟 夫木 小舟も同く 三犬女 凡ん若女 書

一 我 後千 我のそいふは免れ浦の地まやううは神のそん 原光

一 新 古 新のそいふは免れ浦の地まやううは神のそん 原光

未 波之海 あり 勢の友を考ふるにすむまふんといふ 兼宗

一生田里

夫木 輪繋ぐ風をこけそを以て生田の里に結ぶ書 俊成

日 松風不同は人のちてつても生田の里に結ぶ書 為忠

一 摩耶山 鬼系於烟糸村と中村のこ

長原の里よりなる。藤まぐ丸二里坂の口上中村より

楯ノ堂阿毛是名坂の石十八ヶ三ヶ此体あり七曲とすとい

仁王門より内外の石七段敷合二百十壇

▲本堂 南向 十一面観音 ▲夫人堂 ▲各方塔

を介法寺あり

折齒山の友成天皇の治法世天皇法乃仙人の墓刻す

不く本寺観世音八ヶ行二寸の美像是則天皇佛舎
座におひく圖像檀念といふ教を早二の法内是城傍
二ヶ所強六十一面首像之法を是と約く日本に持来し
以て大慈大悲の具物と約ひあひまを尊り信自又親世者
法長を尺六寸あるを彫刻し彼舎像と胸中に納め今
かまをにありてありて並に六ヶ所夫人の像を別流し居を
り月々仏母二ヶ所切利天上寺と号す 額弘法等
○夫人堂 古記に云梁の武帝は元女人附養の慈小
室とて死する者も教をれ帝を慈と慈しくあひ六ヶ所夫
人の形像二軀一刃二礼一彫刻し一軀得ん公梁の
帝初に納り一軀六寸五分弘法大師入海城の光に



寺成均とあるよかありゆ
 道者大分盛とて寺境傍坊三百字にさとり口來の邊
 敷ふひすとほご城之傍列寺の名称より四聖觀音の
 小紋里古殿御座る是今坊舎僅あり寺領あり
 一本光院 一板正院 一王苑院
 一蓮華院 一大宗院 一明王院
 普門院 慈眼院
 元弘年中六郎の遊よ赤松公の意に築城乃ち山廻
 しく敷ふ邊しうて今之を古松州まじり
 一求女塚 又處女死書し女塚
 此の塚ハ女の死ありあひし女と云

佛母六那山
切利王寺



いふゆゑハ三人ノ男 小作田男 千勢男

大塚三ツのあり 一ツハ 生田川東味泥村ノあり

一ツハ 遠目村ノあり 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり

万葉 一ツハ 小作田村ノあり 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり

日 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり

日 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり

日 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり

日 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり

日 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり

日 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり

日 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり

日 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり

日 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり

日 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり

日 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり 一ツハ 佐吉川西渡回村ノあり

社とての社の号はふくく。老東海吉と稱せ母の
中も其の久しき社なりといふ

○腰石 こし 社ありし所也

○この松 このまつ 三場の並木乃内也

○五百傍 いひやう 方角つまびらきびとせども一社老東

社魚傍と云作り川の末東一社あり

社社とて其の山守松木よかりて五百傍の松を造

らしめ給ふ長床の藤き床の浦と云ふ入るありしとて

度々集つるをいひて五百傍乃号ありしとてや

一 洲田浦 しゅうでん 大石村古昔名なる後とてり

夫木

松はありし所也入るん社社の田舎入浦とてり

一 山崎城 やまざきの 所所々あり山の方田の中は社あり

社不志松は徳判友老五郎則美松城乃所也

○月湯 つきゆ 老系社行吉 社寄 墨中 横屋 恵傍

為善本 田中 け村とて山崎の社と云はる海ちり

船と云く河と云 河元集社乃河きおせり

横上名に伝せり三月半に船よりりなり

傳りけり小傳の山崎と云ふは老後わたり

潮河ありて伝りてすこつりけり

翌 あつ ちのすな社の名を嘆けり我も何れいそおみ

一 中宿稲荷社 なかつしゆ 大石村は祭びりし社社中宿村

光明ノシ

手書

○猿丸古史 孫公光回極は而之村の内外に古迹
のこせり傳傳不詳猿丸古史の塔ハ川方東を
一 鶴塚 芋倉川東のた下には也

一 湯元の時源之位於政交而く射ありき
此の跡に今入く西海より久は芋倉の浦に
あき道よりく西海浦人乞とてく是より

一 湯元の茶作 日向系村の石は地盤
一 湯元西馬温泉此の熱中現の神力あり南
海分は芋倉の浦より引き今やと云信者あり西馬温泉
山の湯坊月次と云傳して此の湯と傳と傳世傳
藍破壊して今も遺をくくありびく此松樹の伝

湯元の松と云

一 芋倉洋 日向 日向 日向

一 わたしの淵入地と云傳は日向の松もさくはなり

一 湯元の松と云傳は日向の松もさくはなり

一 湯元の松と云傳は日向の松もさくはなり

一 湯元の松と云傳は日向の松もさくはなり

一 金津山 赤松村又向山の園にあり

一 湯元の松と云傳は日向の松もさくはなり
を埋せば里飢備ふやうな所をさかりおそく屋
あつたりと云ふ今津の号ありと云傳

いにしよ一まゝとてくそと傳ふ

朝日サス入日輝クノ下ニ金千枚瓦万枚ト云

一 赤出高 去唐自回里余うのたの少振一村この浦

むし神功皇后三韓征討し多しと築家いり

多し皇子生也是則中への御子八幡大菩薩手御子一の

皇子齋拜坂才二思然の皇子也と悪少し軍士と伝

け候又集く身と侍皇座をを多しと南満小巡て

海濱しゆと皇子軍士討出るといふうら出の候乃

りあむととり候名所赤出の候いをいり

一 河保親王御廣 上赤出村と自らいあむと平城天皇



兔原佳吉社



貞二皇子三河淳正尹器一和河保親王仁和三子五弟
 仍年移居後人又配流の所は廟を遷されるは打出村
 の内又別河保山親王とあり寺あり

〇建武年中畠山河波宮は信濃の山に就かず保原之
 一宿河原 西よりきて丁余西よりありりつこの唐僧
 ありたり九和の念佛とてしあてりて同く信濃下郡者久
 の唐村又日部郡の心をうて唐河原とん信濃も流るる
 一唐前沖 西より唐河原の流るも云けとてり
 神功皇后三韓へのげありては信濃を築き築きあり
 のがせあり信濃の心は海濱の心唐河原の郷あり
 此唐河原の心あり今唐河原の社則是にあり

と海邊に居る沖の沖を人乃濱とす又其水は遠
海に流る水とせば此は又理ありと云ふ去より今も
武庫船と号し神功皇后統るこころ

一西へ 揚州武庫船あり其庫を西へは所民家
一西へ 揚州武庫船あり其庫を西へは所民家
一西へ 揚州武庫船あり其庫を西へは所民家

日本紀云伊弉諾伊弉册尊為夫婦生蛭兒
伊弉三の子天照太孫の伊弉己は三葉本ありと云ふ

又海邊に居る沖の沖を人乃濱とす又其水は遠
海に流る水とせば此は又理ありと云ふ去より今も
武庫船と号し神功皇后統るこころ

毎の正月九日神拜蛭子の名廣田の社に降

容和の美と悪とありて人権乃る名とて取らるるの
の儀と成之村氏へはと因かへ出と忌部村の志を
此上法ある戸と開く社奉と世俗十日恵比須と
云六月十五日八月廿二日祭事あり

於玉 國の海舟風を年々あかぬやあかぬのやあかぬと三節
の儀と成之村氏へはと因かへ出と忌部村の志を
此上法ある戸と開く社奉と世俗十日恵比須と
云六月十五日八月廿二日祭事あり

○又いある民をあるの河野田義貞所
○推古天皇九年三月聖徳太子始て書實の術と教
子の神を養ふ南無法蓮の林と今にあひてを教
うく法蘭人あつたるものい付らるるト

名所記追加

一 廣田社 西乃まよりむひろく村南よりまよひ道あり
より三丁山きと二十二社の内廣田八幡又神功皇后乃御事

又又府の鏡雨謂

- 一 殿 住吉
- 二 殿 八幡
- 三 殿 廣田
- 四 殿 南ま
- 五 殿 八祖

毎年七月七日祭あり日神室を奉り婦人子孫也又
八月十日後の祭りの氏子是を奉る

叢社とよめ教

六条の天政本

一 氏庫山 凡てむと郡山なり

夫未入の頃ちや湧出ててまゝに云かほむと云ふと云ふたりの公約
 今、林の傍に武庫の跡ありては昔に備ふと云ふ白根井六浦
 ○六甲山 武庫の跡より有馬郡榎村よりて皆武
 庫六甲の山なり當山六甲天白皇太后大仲姫乃皇太子かこ
 ころう忍徳王てんころう山トありて後神功皇后を悪て兵を
 発し三韓さうと侍命后是を知り以て武内宿禰とつら
 軍應をとりて藤坂王及びみん乃族臣を誅して山改り埋其
 かぶと首六甲らむと云ふと云ふ山と稱す
 ○甲山 右山繞り武庫六甲乃半版と云れそりところか
 らとの北と四方の面よりて面向不肖の山也或は又乃基僧正
 なるに居て見陽乃大池を造らしめり其塊をとりて築

一 磐石寺

此の山内よりあり山号六甲山と云天
 長十年弘法大師開基なる土面観音乃像を安んず是則
 大師彫刻の灵佛也天正中、信長公放火より焼く伽藍及
 宝物旧記悉く焼失して後今僅に茅宇を繕ひ本号を
 移し村人こまに守る

一 感應寺

神尾村よりあり山号六甲山と云始
 咒あり云阿彌山云云此寺よりありと観音弘法大師乃作浦
 乃像を像乃内より納む旧記畧之

一 角松原

此の町より二丁東
 万葉天乙女より燧火おぼくしてけのむ糸糸と云ふなり

一 津戸村

右つぎふ一村あり

けおに多田満仲乃海子びちよああの所代よき一 嘉長 敬系
仲之の子幸壽丸の首を多田よりはらふして持さるけ
池水とてわらひまに埋しより風越と名付ちと松原山昌林
寺五心傳那乃因基之尊壽丸石なりあり三月十日に池
あの色りふと云 式ハ津門と年

一 鳴尾碕

海 浦沖ヲよめ歌後

千載 といはころの都の方乃山の端もはら波鳴尾の沖よ出さる

実家

一 押照交

小まり村かめ角

かして海の音をたふれと云へり

方ヨリ 擲れれとぬきり難波乃海かしてさなはにしらうへ

家持

一 小松崎

鳴尾續き小まり村ハ街乃より難波堀江ニツ

松とけハ松

留妻 小松は三ヶ所を云

新勅 難波とて風の世にれハ小松が橋より千鳥鳴るり勝明伝

一 氏庫川

大河也

夫木 浦のまにありといふ歌武亮川流れくるにをいふまにさか 知蒙
玉葉 むまの浦とありあじいより正海言釣私波るより也 允

一 琴浦明神

东新田村

さぐの天皇弟十乃い子 融大臣 從臣河系左大臣 を祀ひ奈山城
の必古奈河原院よあて塩竈此浦を撰しあふさといはあより船を
汲しめあやと云

松原に浪の相あそぶ海はかりえのあそふあそひ

仲正

一猪名 蓬川とく世還ふとありし川名なり
 遠國を尋ねた田代と云ふといつり海濱漆沖川山代歌
 一難波里乃より少一村あり尼崎八丁成方
 此所は梅あり 百瀬玉王仁の歌
 一堀江 月橋 あまが崎町ありとのそとあり堀江乃
 一と云當西成郡本村とありてゆりて云とあり
 仁徳天皇此御宇に邪にありてその所を云のち唐土
 一田園すれ 飛騨ありの所ありて蒼里乃絶ぬまのわれ都
 系を播南水と云く西海へ入んとのちて堤を築ゆと云の
 所と堀江と云傳

一 大物の浦 尼崎の浦を云橋町家の甲あり 定家
 け西原の系河西へ流るる見とほのちのちたるはは女を拜ひぞん
 一 備の初鳴 月夜辰巳あり
 一 長洲村 月夜 尼崎より八丁
 拾遺 人言波後浦は津の邊乃ありてとて袖を折ぬ
 一 神崎 尼崎より七丁天満より一里ありあり
 万葉 神崎のあはれを足る浪をぬるるはむねはれ

あとの教の傍り寶永七の寅年まゝ

一 福系名を板 五真年 一 花慈徳庵 百十一年

一 けき徳 又厚も余 一 摩耶山 千十一年及

一 つきの氷室初り 十三真年 一 阿保をんき 八百零年及

一 楊正成より死 三真十一年 一 神功宮石 十五真年余

一 月石碑建 二十の辰 一 けき徳をん 九百零年及

一 けき徳山開き 九真年余

兵庫名所記卷之上終

兵庫名所記卷之下

一 福巖寺 兵庫西の町に在り

巨敷亀山福巖大聖禪寺と号す、岡山佛灯圓師あり

後醍醐天皇に在り、御海濱の時三々三四の年有

將日尚も小一帝皇居の不在り

尚境内小自然居士哲居多し、井とわしむ水三

くして、渴す事ほし、今久遠寺の境内小あり

一 福海寺 同東南に在り

大光山福海興圓禪寺と申、岡山在、庵舎有大和尚を

尊釈迦運交作、お軍源のそ、氏云、祝國安民のため

割、多し、延文のひる、氏はく、一、上座の、此、無、般

け兵庫の浦小集りのたがもる初形もさる則る氏
御自筆此類を後又御孫の義満に承り乃願をめぐ
山手寺あり性首は二面と伽藍なり其嘉吉二年
中大契りつて敷宇坊舎意やりわらびを後今此地小
後ゆくと云

観音堂十一面大悲菩薩の像あり
はる像あり小多門天の様式なり其弘法大師の化身

一 二本松 右寺より東町西町の間のよ

建武の足利在馬政忠の所

一 真福寺

當寺ハ白拍子妓王妓女用基なる観世音なり則る

の守り佛小像なり一は寺より南今石橋と云小川あり
送瀬川と云丹波のすおぬはの思畏り流罪のそに
たゆめふさりて川とあり

一 和国の笠松

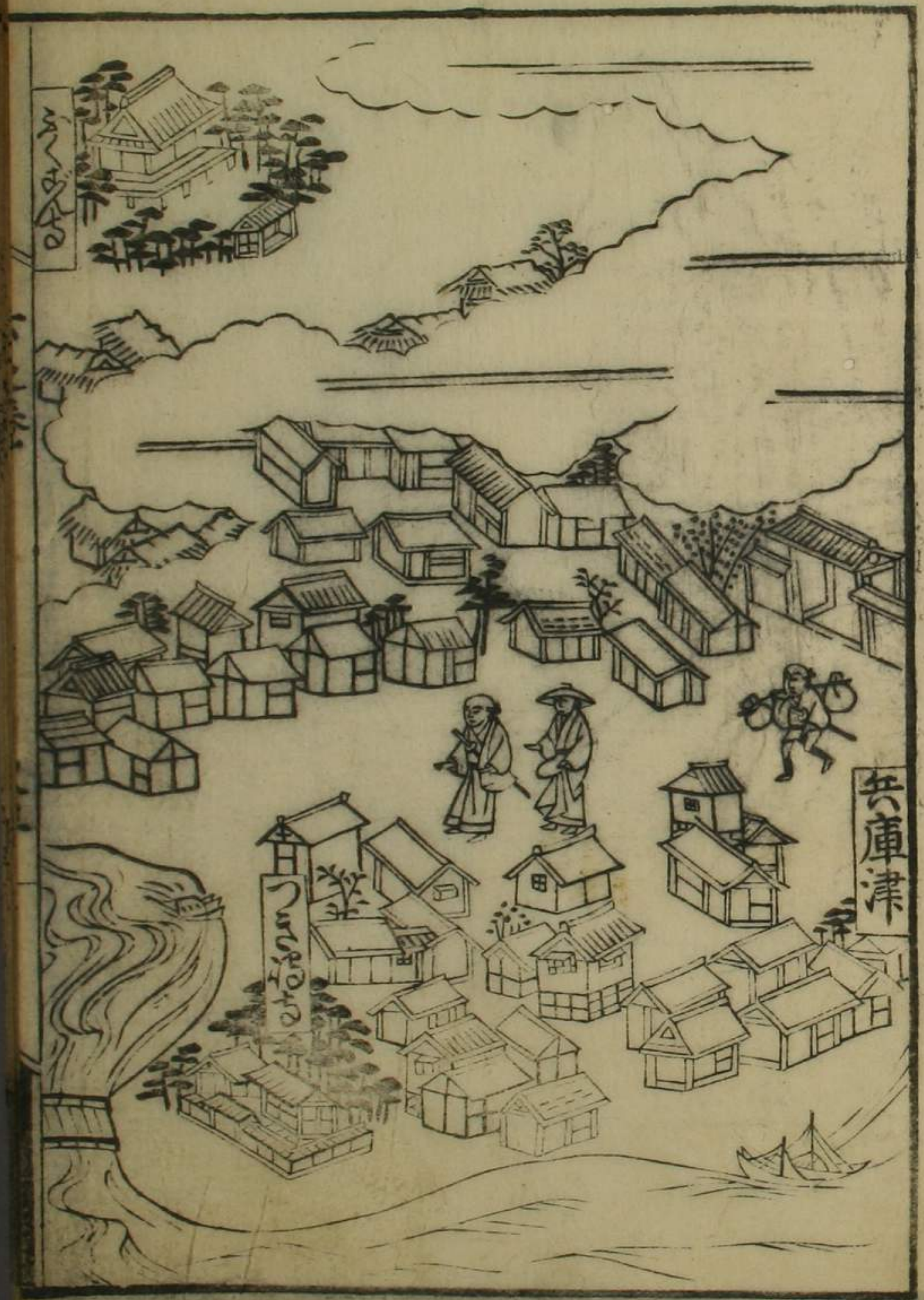
後松の松なり

款小 松末まで記さる意はむらしては松をさるわらび松季維

結風の吹る松のむらしては松をさるわらび松季維

一 一遍上人の御廟 同所

西月山真光寺有法持り元祖一遍上人の石塔あり
同のち廻玉の砌正徳二年八月九日當比にて遷化
一 御年八十又元禄八年八月十日に四十四代



一八棟寺の迹 右川不尔は法皇の御書撰寺
 天皇の御退狩を今もその跡の御書撰寺に在りて
 年には寺と号する事元亨親書あり
 一法海乃御不 同不不
 万葉の御書撰寺の御書撰寺の御書撰寺の御書撰寺
 一萱乃御不 同不不
 萱の御書撰寺 又樓の御書撰寺云々三間乃板屋と造
 後白河の御書撰寺の御書撰寺七月十号巨川の流人又
 字上人の御書撰寺の御書撰寺平家七子事進
 一貞の御書撰寺 同不不
 同不不山寺后真福寺とて大識



冠入る皇瑠女皇瑠女受持る受持る比が天正年中に被却被却以異名
 としと乃山考しと云遺迹事遺迹事を以て今畧之

一葉仙寺

清如塔より一町南

毘西王山と号ス

天平二の年開山其如坊

夫官流義

聖武天皇行基僧正に勅言わして開基一町より一町後
 安二己酉の年京師灵山由阿上人時宗より改宗せり

観音より昔後云傳来則和別名音寺同祈れ其伝
 かり又尚るに南愚自盡け施憐鬼乃繪更此乃室物也

一千僧寺の跡

右寺乃南今会原の三昧あり

萬年山より行基僧正の開基一千人の傍より供養あり
 其の跡なり 亦山光大師さぬきけまへ御下向の足當院小

かして弥陀経一千卷念仏一万遍と終一之家の奥
次帯ひし事 浄土正傳名義集より

一 灯籠堂

千倍の南和国の原乃内

六つ入るはわどけみえりてきて持經者千人集
万灯堂と行ひし事 今退船して人の流り

山家集に云ぬははら乃灯籠堂にのみえり 西行

建武の流る民はくしより上流の流大鍬丸馬田氏に 陳不

一 和国石碕

同海 同入江 同後

兵庫南海中辰已向いふ事 かつる例えたり

玉葉夕陽わらぬ夜 漕船乃行帆小門を去るは浦風 入る前
大政

名は波風宿乃ねまかるとして和国の入江は浦子丹波 愛他

一 大和田浦

和国のと記海を

夫本 和国と記海を今言船とありははら邊は月と記 具氏
万言 漢きう海を和記代たり子船の泊る大和田はら 不記

一 和国明神

和国南原の長所を記すはまの治

年中に洪水ありて高國むこの河邊ありの事 今記 和記
わがせま 毎の六月廿三日 祭記の西國上下の渡船は社

ひよりを移りやよ其論記あり

一 兵庫古跡

天正の甲池田信輝あててまの邦有世に在るの事 好男
正九席は跡を守りし中田郭今あり

一本間遠矢

和田ノ橋方三丁のいね系

建武年中申さる氏はくしよりと條のさき本宮孫四郎重氏チカシは
和田の流より招軍乃流船へを夫を射くをその旨し也

一 四裏倉敷

和田系所なる倉敷丁申西南

福系彰那在津帝御遷幸の四裏倉敷一丁申方築地乃
迹あり和田の惣を今水の子と云

一 延喜山

和田ノ系に

醍醐天皇の御幸ありて所とのまはし新王殿乃飛勢の
一丁の東山のり延喜山の成も人山の名と云

一 三井池

浦海里徳橋 若原今十丁余に東尻池村也

五丁の三井池の池乃不変を是はぬいびりて人の化をいふなきとのう 人丸

ソク 踏見とて地早身と云まきり平の池は徳橋とのう 井ガミ

万葉 こととよ神とれてすの池乃不変を是はぬいびりて人の化をいふなきとのう 人丸

夫木 若らため其那の里人今らむ建てそらわら高や方代の取 隆代

一 白梅

ひり尻池村よあり

若原家た好のさき和田の池は船をこめ吹風と云まきりびあの
秀をる心東愛一行名也

一 通盛塚

若原十丁申西側乃の通盛のそと

和田系有一の谷合戦若原山乃自ら越前と伝らとりぬ
三十餘とて本村原を組討らぬ

一 原又はり

和田系は多水池申は平柳あり

近江の國有人本村原又重章とありとありとあり

一 長田川 在傍の池あり

及びらの重傷 平家ゆかり 藤川 荻藻川とあり

後らと重の池とありよ見約が林とあり板屋とあり

とありとありとありとあり

一 長田大明神 在傍の川あり

風の争ふる物並木 入長田村の内毎の八月十八日祭あり

▲祭神一座 事代主尊 攝社二座

神主大申長

神宝九穴あり

神功皇后伐新羅明年二月皇后之船廻於海中以不能進更還務古武庫水門而ト於是事

代主尊誨之云 祠吾于御心長田國則以葉山

媛妹長媛令祭

。村上天皇應和三年七月十日於當社雨祈アリ

一 長田里

夫木ありはあせめごとあり移るはよありと長田の里に子苗取

兼仲

一 明泉寺

一の谷合戦のとき越中前司盛俊降不又け遠平知章ノ

はあり

一 蓮の池

かほも川あり

は池は必基はる天季中よりせり農業早魁の愁なるらんがため蓮の一粒を池中へおけ八功徳水と稱し

とすの池と号のみ

一 西代村

日向の池と村ありいりふはあはら

井ノ池あり

一 盤復塔

け代分西山の寺あり

重家侍大拍多門あらのありとりやト一原氏方格役か平六

一 禅昌寺

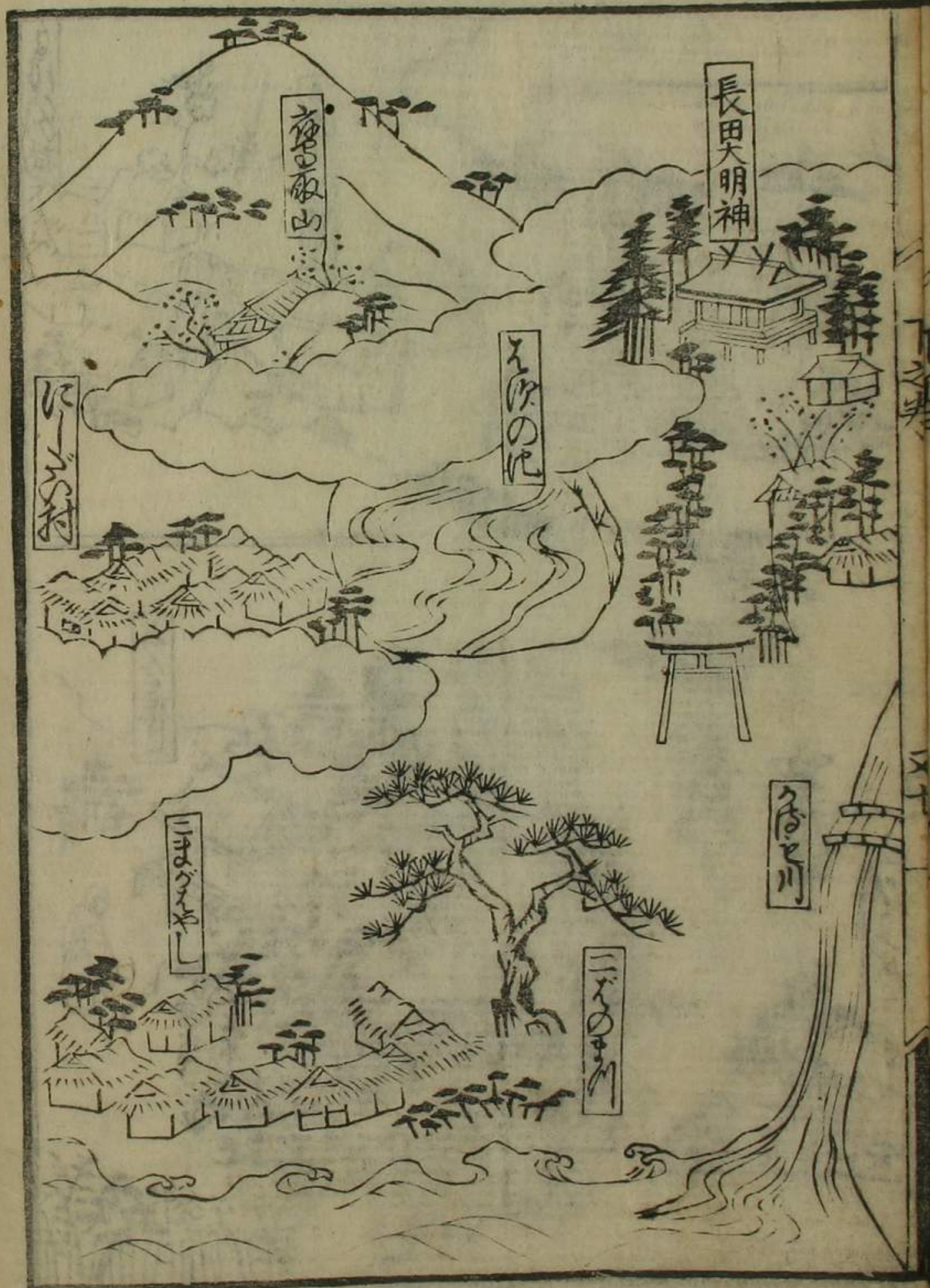
とすの池と山内

帝釈神松山と号、用山月菴宗光大和尚 後光嚴院

延文の仲御系剣のちなる物也志教彫刻為山、豊



317A
19
19
19



程跡と優興一る虎あらしげ上の山と神松山と申又鷹岩
 山と号昔神功皇后三入歸船ありて是より石をたわて
 いののの上と名をふり忽ち山と名をとりて神松山と云月庵和
 尚登山して精くありと云を松の勢原く久し君の云り
 浦守居ありと云く流ぬもの程思ふへの其後和尚六十
 四歳とて康應元年己三月廿三日遷化一より正續大祖禪師と
 贈号あり

一妙法寺 蓮の池をたつしひちり
 去言ぬと山と申伽藍のまほしく中堂昆沙門天大仏也又是より
 十丁抄を成山と申車村と申あり矣松地孫があらあり
 一二葉松 一名ちやんね 又原氏松と云

くまの末の俗田沼をわたりて一本の松を種くると今も
乃とせり

一勝福寺

西沢村今又下りていたの上文最も

聖天権現の社こまかく大木村ノ上よちあり桂尾
山とリス一条のん漸動乳雨申るの聖とん春月の作用
えん理示上人言云世君宝ありとあり申ふも牧溪思
恭具及子三秀は師ホの筆おのく佛法弘法大原
所持の湯杖又善庵つき下は信楽の時、燭十をくま
佛堂あり昔八坊全ねまありしが今僅し

宝光院

遍照院

東林坊

系は坊

橋本坊

一月見の松 兵庫より二里寺東次方村ノ上山の岸に

松十中余あり仍事伴納云丹良の西端

○園懐茶所 福養山 岩東津下あり

一ひう原氏ノ古述 けいすぬらり

仁明天皇の皇子光源氏の君次方明石の景色よまよみ

爰不暫く喜秋を這りぬらぬたかやませりこやお

一破馴松 東次方西下ぬあ村原辺すべての松を云

行平智長は浦よた迂りひ三と勢して後洛一のみ名所

を慕ひて松の原を若船の方へをひくと云

後於 次方の湯治よ立原をゆきね下松よ浪のうらぬ見札

一行平記所の松 今た今有原へ東次方下

下巻

十

一 須磨寺 兵庫より一里半余西ういごう上も
 上野山福祥寺と号し本尊を觀音之開山開後上人
 神領たちとんむり天長の治和田の神乃海底に毎
 光明かく度とて碧天と照す法人はまは恐る処に漢人
 の因に烟をおろし真とと一つの檀木觀音の灵像を
 ゆり小宇に安置其灵像あつたるりしは中納言
 達を光孝天皇仁和の二年開後上人が執して次
 の御上野と尸山よち移しけちるる創あつて天下安
 倉の御勅額所と寸其後久壽年中に源三位頼政諸
 寺社とも悉再興と云ふ須磨御朱本あり
 又其後指太納云豊后本頼に再興

○中々の厨子の頼政寄附の遺りあり
 樓門に金剛力士堂又其堂の父子相ともに彫刻あり

須磨寺 灵宝のありて有之りて其寺

▲ 喜葉の巻 弘法大伴作 ▲ 高篠笛 祐孝傳作

款 ぬきの大さふひて帝行のよれむいと思ひとて御也

▲ 敦盛赤濱各号 佐藤上人等

日 引壽花 草よりすぬで絶へて跡の連よととにせり

▲ 母衣納各号 甚さは所等

日 佐の水雲と破でりまかむ心行を足あて佛力

▲ 敦より幼少の時も松和歌二首 一月甲冑あり

庭松 中々同建てもあるはらんあき流るるやなの一らむに

松の山風
 松の山風 繩るる松よりとせの巻きて久しきとせの山風

▲若木松制札

武蔵坊弁慶

源二守の松

叶美江の松 一松松竹盗軍者

任天永紅葉の制札 一松者可剪一掃

本壽永三〇二月日

今坊令十二字

一松壽院 一大聖院 一慈眼院 一東林院

一蓮生院 一不動院 一華嚴院 一心光院

一楠本坊 一松之坊 一安親坊 一東秀坊

○漢竹松内よりの昔神功皇后御託伐の事と此の國
 松浦川に松を約り久しとせの松とせの松とせの松とせの松



一行日 武蔵坊弁慶

御下河原より一の谷古戦場の所より後東の郡迄
 一里半余坂湯城と云ふ十里余後山はつた
 鴨越の山はとて峨々として南海紀の
 路は海宮和泉の浦を縦横合まんとして後海紀の
 又遠く九紫万々に渡り紅赤なる月人の紅
 平に配ふ面と觀せし後橋が峯は清けぬの浦も
 水の清く下し垂下り昔々かたぬ色のまどくにむと
 わくく又周くある木の橋渡をいね風村の古を
 一本は赤もすくせぬの心景と

一の谷の雲屋 次まある湯城を家西川をたぬるに
 花 ちのめもさうにすく人もあつたまといふすぬれさる

今葉 ありの湯屋をすまれ鳴くまは世孫免の次下乃園守善
 ○鴨越の道てつらういふ家は橋よりあへひひおふなるり
 一の谷は揚がとて美乃乃橋はあり
 俗に云は揚仙人気と吐我相を現し仙境をて暫い
 湯は極歴すよめくあつと云

一の谷 後河原より六丁也
 一の谷の長さ曰下余様式拾月より三十二間大母はな波おき
 凡一丁余二の谷は約り二丁四丁也
 一安徳天皇御遷幸陣所
 壽永三年甲寅一の谷義経討つる白居のなる心裏や
 一き守成亦三方に方ちの伝ぐんせと流ハ二の谷のせり

左三行目
 一の谷の...

合又一谷二の谷のるは法勢陣屋の迹ありけしと決つた乃
上野と云

一 義 園子ぬ次丁の森の森がよとると決ありと後夜小津河

二 谷の毛さ三丁余よ二八丁のるさ此の谷は分派打手は二丁

余一丁谷二の谷のる二丁早る餘けるふ 坂落 巖石

冷煙あり

三の谷の毛さ三丁余換十九丁のる九丁谷は分派打きとまて又

十丁余二の谷と三の谷のるさ

一 敷松落 三の谷の岡は還れがよて

太夫平敷松落永三年辰二月七日の各落陣の日徳谷
次郎盛実の村めしけの十六年空顔珠清大居士





は石塔あり營の裏再集して是城を今と云傳さる
 高さ一丈一尺だいせき臺石曲尺四方あり

○又は塔の上れ山やま泉ありと井乃流あり

敦盛石塔

一休

昔斯地有戰場名

流血染殘スレカキ木櫻

須磨浦風散花夕ハナツキ

恰如アツモシ熊谷打ウチ敦盛

一鉢伏ハチ牽ヒキ

三ノ谷の上といふ

昔神功皇后夷敵と退治故物ありといふ山は此の地なり
 士卒と集めあり甲をぬぎて地は伏名軍功と傳れ
 已依て鉢伏乃牽と云 胃いは盛と伏ふはひまきあり
 一頃まじ浦 巻厚分一里中余東西溪と今村と

屋の川は石よりちり川あり

十載 又舟雨はたき其船のり常の境は清次郎の浦へ 俊成

拾イ 白浪を多くと衣かきし其の清次郎の浦へ 人丸

「清次郎の海狗をくしけしよりその世を松元は清次郎 正一

○ 隠江 清次郎の造云 ○ 撫原まの浦 法作

六帖 「その清次郎をくしきし清原のきれがくしひりり 不

万景 「この清次郎の清次郎の清次郎の清次郎の清次郎 不

一境川 興存が二里

接津と接戸と支那の境より細川あり清氏軍家の戦場乃

村は東生田の杜と直に西極の八幡村と接津村と接津と限つ

平家城内と接津川を境村まで拾下斗西極谷に直

平山香の遺一二のけ先傳ありそひはあ

○ 境川が西極村なる、二里清氏の山海上三里程

東水三 辰子二月七日一の若合戦平家討死の人の

とび二月改元をくし元暦元年に始

一 名らせの在浦盛 三十五 本村源三

一 一人を文業盛 十七 土屋三

一 あらせの清盛 十六

一 ひろの清盛 十六

一 清盛の清盛 十六

一 清盛の清盛 十六

一 清盛の清盛 十六

一 清盛の清盛 十六

一 清盛の清盛 十六

一 清盛の清盛 十六

洲くも教の穂りと寝る水七庚寅年まぐ

- 一 板敷古皇居 三百九十九 一 某仙古 九百九十及
- 一 板敷古皇居 三百九十九 一 某仙古 九百九十及
- 一 板敷古皇居 三百九十九 一 某仙古 九百九十及
- 一 一遍上人 四百五十成 一 頃古古 八百二十及
- 一 日軍軍上人 十一年成 一 大皇後古 七百二十及
- 一 傳皇公薨 八百二十成 一 一の皇古 六百二十及
- 一 月 石塔建 四百二十成 一 一乃年 八百二十及
- 一 菅丞相 八百十年余

矢田郡郡丹生山田の庄田跡ニテ耶 兵庫より心三里山中

一 梅雨井 系野村栗花落氏の宅より

水の漏出は間長四尺余且三尺深三尺ははら水はし重油は
正し梅雨にへく必水は是出は水口ともて入梅乃日教と
定む五月栗乃花の落ふは梅雨の時節なりもふ三字に
依り地は此姓といは始祖山田九衛門尉真勝ハ四十七代廢帝
天皇の御宇朝廷よはしこはよ横萩右大臣豊成のつ乃息
女白濁飛と恋倦くかると云なすね白なき一もの和歌をか
く

雲はたもか所ぬ雲はれ白雲をその乳懸く向男よ
とよとてかふひるさぬんとて誰面切りまきいかなをあらうまぬ

是より返事やは得ずしとちをれいさひなりて

三月乃稻子の生傍れに居りよめ田ふちよ白鳥の水

とすておろきまきいそ成のきやう彼心ゆりのゆらぬとと感ド

終よ帝ふはしてゆにひめとま後つあは送る帝より孫の川

は天國乃御叔とさしゆふ長三尺六寸五分 其後白鳥二男を産て

三と勢の内少はるぬひね仲友にわたり遺骸とをくこの東院

にゆむり初て叢祠とほし兵敗天に祀ひすつは地は水わき

お今おりて梅面を却む

一鷲尾旧迹 下村

家記 桓武天皇の皇子葛原親王十四代安濃は三良貞徳が

孫奔名は良清綱も始て鷲尾の地をゆふ三よはかば男が

久とろのた乃庄日と号し山田の庄よ君位を孫の後孫一の谷

戦物よひよろと久乃雅雨を越もふきに武久案内者よ應諾

して生年十七にたる一子をむかは是と鷲尾太良経春と云

大和乃講をゆふは孫系随ひ一人高子の勇まをり

武久よ其具おとと物ふ

一太刀 一振長三尺七寸 一陣はく一強

一太刀 一振長三尺七寸 一武勇坊赤衣の長刀同太刀 長三尺三寸

一飛井六良太刀 一梳一膳わり七寸 武久高きと云

右代徳牙丸の太刀八圓白秀吉云々献す

兵庫十景の題 扶桑名勝詩集出ル

巖梅早春 漆川清流 經島煉月

兵庫帰帆 福原旧都 布引飛瀑

廣田神社 和田笠松 兵庫舊雪

生田暗嵐 須磨浦十景乃題目 關屋間月

若木櫻花 上野復艸 武庫晴雪

兵庫飯帆 後山帰樵 一谷古戦

塩屋暮煙 須磨寺鐘

磯馴松風

福原三十三番観音札所

一番 兵庫 菜仙寺 二 東尾池村 法立寺 三 駒ヶ林 海泉寺

四 駒ヶ林村 慈眼菴 五 駒ヶ林村 松源菴 六 日 松月菴

七 野田村 正福寺 八 東スミ村 浄徳寺 九 スミ寺 福祥寺

十 大手 勝福寺 十一 板宿村 禅昌寺 十二 池田村 妙示寺

十三 長田村 福壽菴 十四 夢ノ村 長福寺 十五 鳥原 願成寺

十六 石井村 灵善寺 十七 平ノ村 東福寺 十八 花熊村 宝池院

十九 坂本村 龍泉寺 二十 花熊村 福德寺 廿一 兵庫 極示寺

廿二 兵庫 神宮寺 廿三 兵庫 西光寺 廿四 日 惠林寺

廿五 兵庫 法界寺 廿六 日 来迎寺 廿七 日 金光寺

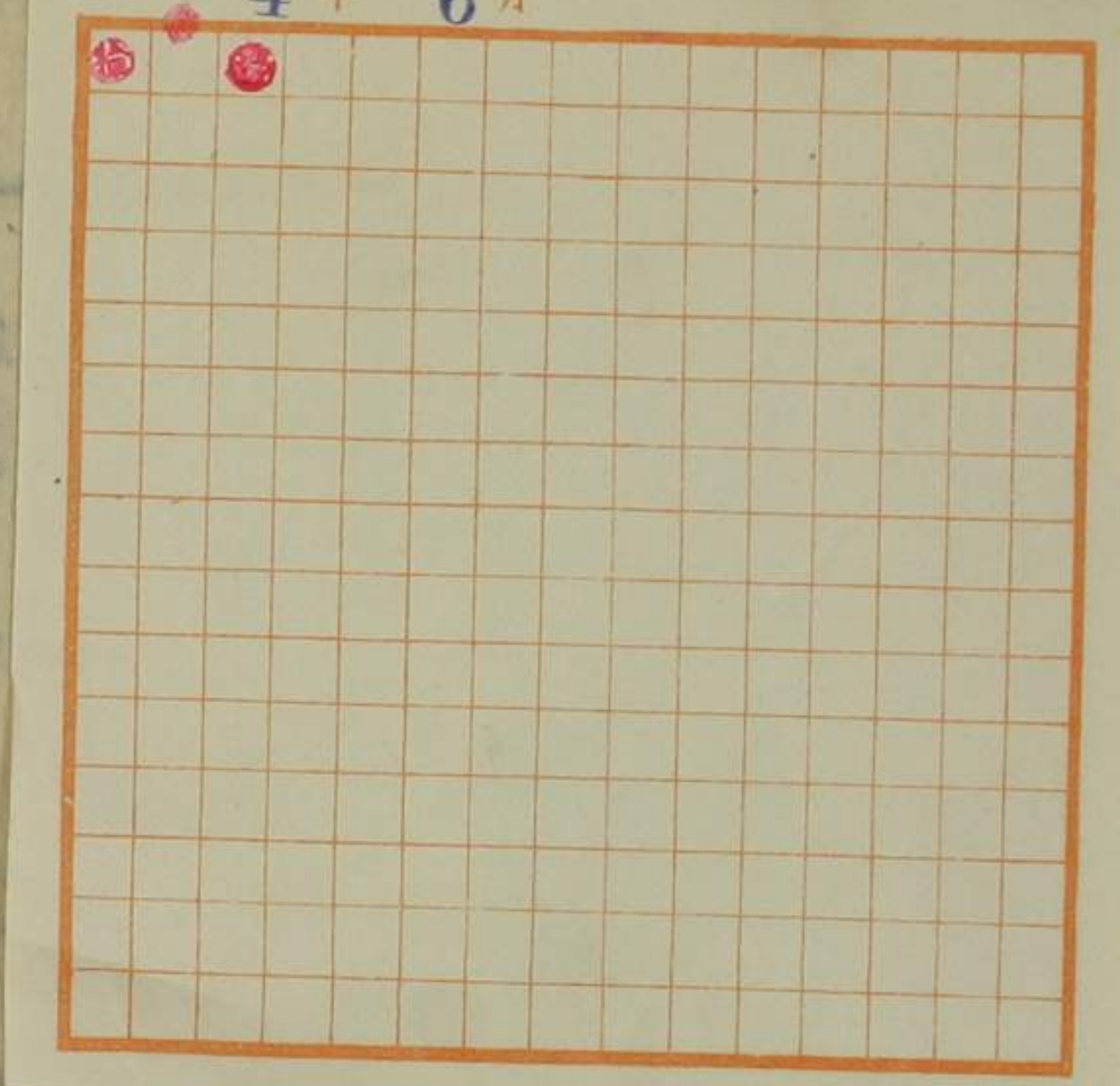
廿八 日 福嚴寺 廿九 日 福海寺 三十 日 永福寺

世一兵庫 能福寺
 世二 真福寺
 世三番 真光寺

<p>一 寺本末、 一 六丁 一 六丁 一 六丁 一 一可余 一 三三 一 二二 一 三三 一 四四 一 九九</p>	<p>一 寺本末、 一 一三 一 一三 一 一三 一 一三 一 一三 一 一三 一 一三 一 一三 一 一三</p>	<p>一 寺本末、 一 二二 一 二二 一 二二 一 二二 一 二二 一 二二 一 二二 一 二二 一 二二</p>
<p>一 寺本末、 一 九十九 一 九十九 一 九十九 一 九十九 一 九十九 一 九十九 一 九十九 一 九十九 一 九十九</p>	<p>一 寺本末、 一 一三 一 一三 一 一三 一 一三 一 一三 一 一三 一 一三 一 一三 一 一三</p>	<p>一 寺本末、 一 二二 一 二二 一 二二 一 二二 一 二二 一 二二 一 二二 一 二二 一 二二</p>

支福原の都、跡兵庫ハ、何れ後ノ名高キ古
 迹あり、築き、石ノ世知ル、所多シ、
 未業、凡そ、其ノ書、も、
 志の、近世、國花、萬葉、集、撰、州、群、法、の、書、
 大、部、舟、也、
 託、認、
 在、遂、
 梓、
 寶永七庚寅八月良且
 植田下省子

4年 6月



長庫津後之町
菊屋新太郎
開板

本
家
珠
五



Faint, illegible text visible through the paper from the reverse side, appearing as bleed-through within a rectangular border.

長庫津後之町
關板
菊屋新太郎

木全
家珠
五

